

第 1 回連携中枢都市圏ビジョン懇談会議事概要

日 時：平成 30 年 11 月 6 日（火）午後 2 時～3 時 30 分

場 所：鳥取市役所本庁舎 6 階全員協議会室

出席者：委員 出席 下田敏美委員、坂本雄司委員、石塚康弘委員、沼田宏一委員(代理)
岩本敬二委員(代理)、門脇亮介委員、山本高広委員、
小坂祐司委員、江本克也委員、西尾広海委員、甲田柴乃委員、
松本公彦委員、木下仁人委員、太田章太郎委員、平尾節世委員、
坂本朋子委員、中澤典男委員
欠席 青木博之委員、下田浩文委員、大磯一清委員、猪坂悦司委員、
中島文明委員、廣谷幸人委員
オブザーバー 鳥取県東部広域行政管理組合 田中利明局長（代理）、鳥取県元気
づくり総本部 谷口透振興監、兵庫県但馬県民局 古川直行局長
（代理）、NTT 西日本鳥取支店 射場繁部長(代理)、香美町企画課
水垣清和
事務局 鳥取市政策企画課課長補佐 福山博俊、岩美町企画財政課長 田
中衛、若桜町ふるさと創生課係長 車井育子、智頭町企画課課長
補佐 國岡まゆみ、八頭町企画課長 川西美恵子、新温泉町企画
課長 井上弘

1 開会

2 あいさつ

3 議事

因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏 連携事業進捗状況調書について

(因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏連携事業進捗状況調書について事務局説明)

《委 員》高齢者の方が体力を維持し、お互いに住みよい社会をつくるために、行事を一
緒にやり、お互い目標を持ち高め合うためにも、新温泉町に高齢者健康運動会
への参加を検討していただきたい。

《事務局》新温泉町でも、麒麟のまちスポーツ大会を計画している。沢山の方が参加でき
る方がよいので頂いた意見を十分検討させていただく。

《委 員》一般社団法人麒麟のまち観光局を設立して、250 社を超えるメンバーにご協力を
いただき進行中である。最近の課題は、実際現地で窓口になるプレイヤーが少
なくなっていることである。そこで若者の地元定着促進事業のように、鳥取大
学・環境大学の学生の県外流出に歯止めをかけるために 1 市 5 町+香美町エリ
ア全体で取り組むこと。小さい時から教育的に自慢できるエリアに住んでいる
私達と思えるように、官民が一緒になり取り組み、若者に定住してもらえるよ
うに一体となり連携し進めていってほしい。

- 《委員》松葉ガニも解禁になった。山陰には魅力的な食材が多いので、魅力的な食材と山陰海岸ジオパークを利用し全国に魅力あるまちをアピール出来たらと思っています。ひとつの打開策として、連携中枢都市圏の連携事業の取り組みは良いと思う。
- 《委員》企業・創業支援についてだが、商工会議所が9月1日から5回シリーズで開催。30名を超える受講者があり創業に向け受講した。商工産業支援センターでも11月10日から創業塾を開始、今31名申し込みがあり進めている。
- 《委員》地域商社活用事業についてだが、取引業者が累計80社ほどになってきている。引き続き圏域内の生産者、事業者の販路拡大に努めたい。事業が多岐にわたっているので進捗状況の低迷しているものを皆さまで深掘しながら考えていく。
- 《委員》バス事業で10月1日から鳥取・岩美間快速便が運行しているが、思ったより人数が少ない。時間、バス停の見直しが必要。Gバスの新たなコース作りが必要。バス業者は全国的に乗務員不足が深刻な問題。みなさんにお知恵を借りたい。
- 《委員》現在、どの業界でも同じだが、バス業界も人手不足かつ運転手の高齢化が課題。若者に来てもらいたいシニアの方の労働力の活用も重要になる。連携中枢都市圏の事業の中にシニアの方の活動も加えてはどうか。
- 《事務局》ここで具体策は答えられないが、持ち帰り検討する。
- 《委員》関西事務所のこういった方面の事業の起業を重視しているか。漁業雇用促進対策事業は、これから実施予定があるのか。農業担い手育成塾運営事業は、9月現在実績が0だが、本年度見込みが19となっている。この数字の根拠は何か。
- 《事務局》企業訪問は地元出身者、その知り合いの方で業種は特定していない。八頭町内の廃校に工場を造ってもらい企業誘致に成功した。
- 《事務局》インドネシアの漁業研修生の受け入れが入っている。数字は見込みだが、今後研修がある。
- 《委員》農業IT化は関心が高い。アグリテックでセンサーを使い農業の効率化を図ることが加速度的に進んでいる。若い方を含めIoTを活用し鳥取の土地を有効活用していく方向で事業に取り組めば、空き家問題、農家の高齢化、鳥獣問題など密接に絡んでいるので有効だと思う。
- 《委員》おためし住宅を使用したとき、とっとり移住応援メンバーズカードを使おうとしても店の人が知らないので使えなかった。鳥取に住みたいかと学生に聞くと、交通が不便だから住みたくないと答える。ごみの減量化だが目標値が下がっているのは災害があったからか、他に何か理由があるのか。
- 《事務局》ごみの減量化の目標値についてですが、数字が低ければごみ処理が減ったという事で低ければ目標達成となる。
- 《委員》地元就職をする若者を増やすため、豊岡に大学を造ろうと取り組んでいる。林業や漁業も人手不足で山の活用も出来ない。勉強をさせながら、子供が地元に残っていく事を考えなければいけない。
- 《事務局》学生が県外に出て行くのは、全国的に地方が抱えている課題。県外の学生にどう残ってもらうか検討中。職場体験をしてもらい地元愛を持って住んでいる町を好きになってもらう。画期的な方法はなく地道にやっけて行くしかない。
- 《委員》現実問題若い人達がいらない。地方によっては高齢者が元気でなければ活性しないと考える。健康寿命の延伸の為にパワーリハビリを麒麟のまちの事業で、それぞれの町に取り入れてほしい。とっとりふるさと元気塾参加状況はどうか。3

月末にはスーパーリーダー10名程度認定と出ているが圏域全体で振り分けがあるのか。

《事務局》スーパーリーダーについて、現在全体で10名予定している。元気塾への参加状況については、現在集計できていないので改めて報告する。

《委員》圏域高校の企業見学に、普通科高校が対象にないのはなぜか。ドクターカーについて進捗があれば聞きたい。

《事務局》企業見学について、普通科にはお願いはしているが進学が多いので実業高校対象となっている。ドクターカーについては、鳥取市において7月に岡山大に人材育成の講座開設、また平成30年4月に救急科を開設した。今後、ドクターカーの導入も検討していく。

《委員》観光大学は何年制で受講者はどれくらいか。空き家情報が停滞したものになっている。

《事務局》観光大学については、鳥取市コンベンション協会が10月から受講生を募集して、年の後半から単年で色んな講座を受講してもらう。例年では30人位での開催。空き家についてだが、各市町が持っている情報を一元化し各市町が共有している。各市町で公開している所とそうでない所がある。基本的には、家主がいいと言えば登録となる。

《委員》地域商社とっとりともプレイヤーにどう支援するか等を一緒に考える。地域商社ととりの取り組みを麒麟のまちの圏域にもっと広げてほしい。

《委員》病児・病後児保育ですが、利用しやすい人が利用している。もっと利用したい人がいるのではないか。若者の定住には地元で活躍できる場所をつくるのが大事。ぜひ、普通科高校の人も企業見学に参加してほしい。実際行けば、イメージだけではなく目に見えない部分まで知ることが出来る。

《オブザーバー》麒麟のまち連携事業について、1市5町が連携され目標とする圏域全体の賑わいを取り戻す。どうこの事業が関わっていくか一緒に考えたい。特徴を残しながらまちづくりを進めてほしい。

《オブザーバー》防災関係は全国で注視されている。災害の拡大を防ぐ、予想するという意味で地域の皆さんの安全・安心を守るという事で関わりたい。

《オブザーバー》今年は鳥取市と合同で防災訓練をした。災害時の防災協定を締結したので鳥取市からは給水車を借り訓練ができた。若者の定住促進に取り組んでいるが、成果はなかなか出て来ない。皆さんから協力と知恵を借り取り組んでいきたい。

《オブザーバー》県としても進捗が上がるように協力したい。とっとり移住応援メンバーズカードは、県が進めている事業なのでPRしていきたい。若者定住だが、県でも教育委員会のふるさと教育、インターンシップをカリキュラムに加えることもやっているのを声を県教育委員会にも伝えたい。新しい取り組みにも興味を持っているので、また相談してほしい。

4 その他

特になし

5 閉会